
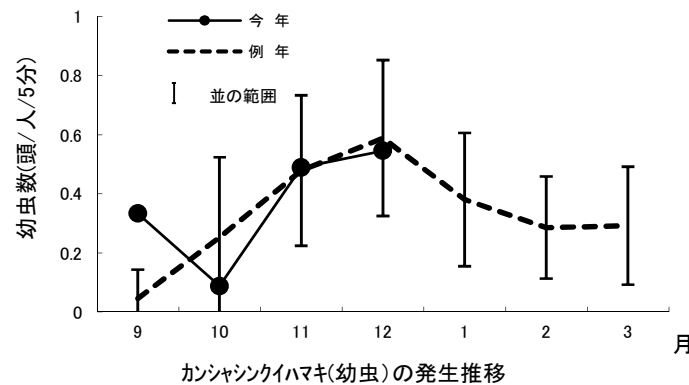
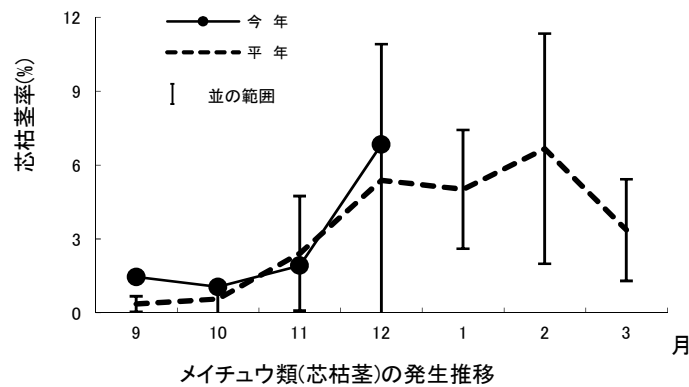


作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシンクイハマキ)		
12月の発生量(現況)	並		
1月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	芯枯茎率の平年の発生推移から、12月と同程度の発生量ととえられる。		


発生量の根拠(調査結果)



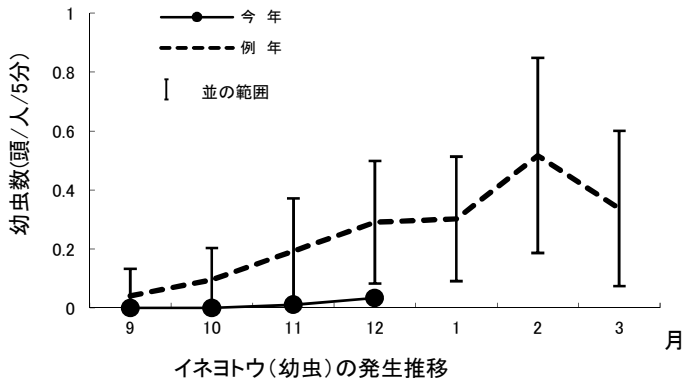
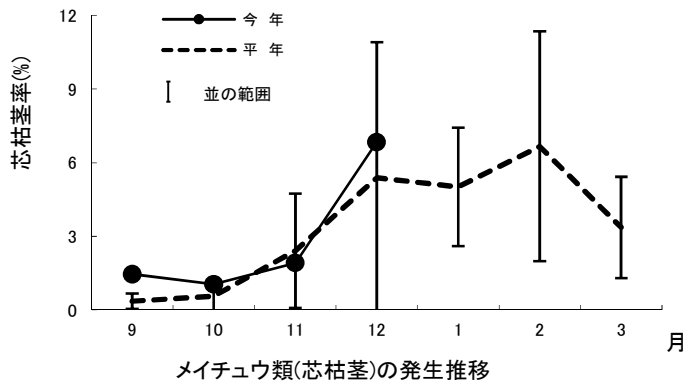
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類の94%がカンシャシンクイハマキだった。

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	② メイチュウ類(イネヨトウ)		
12月の発生量(現況)	並		
1月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	芯枯茎率の平年の発生推移から、12月と同程度の発生量ととえられる。		

発生量の根拠(調査結果)



- ・ 茎内で発見したメイチュウ類の6%がイネヨトウだった。
- ・ 本島南部のフェロモントラップによる成虫の誘殺虫数は0(頭/日)だった。

防除のポイント

- ・ 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。